○病院での感染が怖い・・置き薬に問合せ殺到　テレビニュースで報道

○配置薬で食品　「くすり屋さんのごはん箱」始動

発行：日本置き薬協会　事務局

○病院での感染が怖い・・・置き薬に問合せ殺到　テレビニュースで報道（３月30 日）

テレビ朝日とその系列テレビ局より配信されたニュースを紹介したい。

新型コロナウイルスへの感染が広がるなか、昔ながらの「置き薬」に注目が集まっています。院内感染も相次ぐなか、病院で薬をもらいたいが感染するのが怖いという人たちから問合せが増えています。

都内に住む親子が待っていたのは、薬の到着です。江戸時代から続く薬の販売手法「置き薬」。販売員が定期的に薬を届けてくれるうえ、客は使った分だけ料金を支払えばいいので、買いだめの必要はありません。

学校の休校や週末の外出自粛。猛威を振るう新型コロナの影響で国民の生活スタイルは大きく変化。販売員のもとには、薬を補充してほしいなどの問合せが例年より増えているといいます。

森田の置き薬・森田雄一さん「風邪薬は（在庫）が減ります。週末の外出自粛ですかね。そこから（新規客が）特に増えてきました。客単価は去年の３月に比較して２０％くらい上がっている」

さらに、病院での集団感染があいついでいることへの不安から、むやみに通運することを控え、置き薬で様子を見ようという考えも需要が伸びた背景にあるようです。

○配置販売で食品　「くすり屋さんのごはん箱」が始動

配置販社㈱サプリ（八橋謙二社長、富山市）は、３月下旬より専用箱を別途製作しての食品配置事業を始めた。その名も「くすり屋さんのごはん箱」。軌道に乗ればデータやノウハウを全配協で公開し、新たな配置販売ビジネスモデルとして提供していくという。

主なターゲットは団塊世代の所帯。北陸三県の全顧客の二割にあたる約七千軒への配置を目指している。

価格は税込でご飯パックが一個 160 円、即席味噌汁が一個 130 円。高級レトルトカレーが 600 円、国産鯖缶詰が 350 円。全使用で約五千円となる。いずれも一年以上の長期保存が効く商品だ。既に一人暮らしの高齢所帯からは感謝の言葉が寄せられているとのこと。

スーパー、ドラッグストアとの価格比較があっても、配置の利便性で高価格、高品質を得意先は受け入れられるとみている。

同社の営業員一人当たりの担当は約千軒で、その四割は使用がなくこれを活性化するのも目的だが、それでも全得意先には配置せず、月一回ごとに訪問し三回未使用なら引き上げる。（以上、薬日新聞第 4037 号より転載）。「置きグリコ」が他業界生まれなら、この「ごはん箱」は本家生まれとなる。

ドラッグストアが食品の併売により活性化をなしたのと同様な結果を得られるか、注目である。

なお、八橋氏社長は全配協配置部会法人販社会長、配置販売新戦略会議議長。

〒332-0034　埼玉県川口市並木２－30－６内外救急薬品内　　　TEL 080-5514-7511（有馬）
日　置　協